

基礎・基本の定着をめざして

【幸手市教育委員会】

1 本校の学力の課題

「分析支援プログラム」の結果から、国語科では「書くこと」「関心・意欲・態度」が、算数科では「図形領域」の達成率が低いことが明らかになった。また、担任教師からは「学習習慣の確立」の必要性が出されている。本校児童の課題を克服し、基礎・基本を定着させていくための具体的方策の一端を記す。

2 具体的な取組

(1) 少人数指導の充実

本校では、この4月より全学年、全学級で少人数指導、TTの指導を実践している。少人数に分けるか、TTによる指導かは、単元によって異なる。本校は空き教室がほとんどないため、少人数指導のための教室の確保に苦慮しているが、PC室、図工室、理科室、図書室、会議室、家庭科室、生活科室等をフル活用して取り組んでいる。

1年生	国・算	週4時間	4年生	算数	週4時間
2年生	国・算	週4時間	5年生	算数	週2時間
3年生	算数	週4時間	6年生	算数	週2時間



(2) 国語力の育成

【必達目標の設定と実践】

<暗記>

1年生	きんぎょのあぶく
2年生	ぞうさんのぼうし
3年生	百人一首を楽しもう (20首)
4年生	ごんぎつね6場面
5年生	枕草子
6年生	雨ニモ負ケズ

合格者は、担任から合格印をもらった後、校長室で披露する。
<読みのめあて>
・大きな声で
・気持ちを込めて
・速さや間に気をつけて

【視写力の向上】

書く力はことばを学ぶ基本能力の一つととらえ、筆写速度の水準を高める取組を始めた。

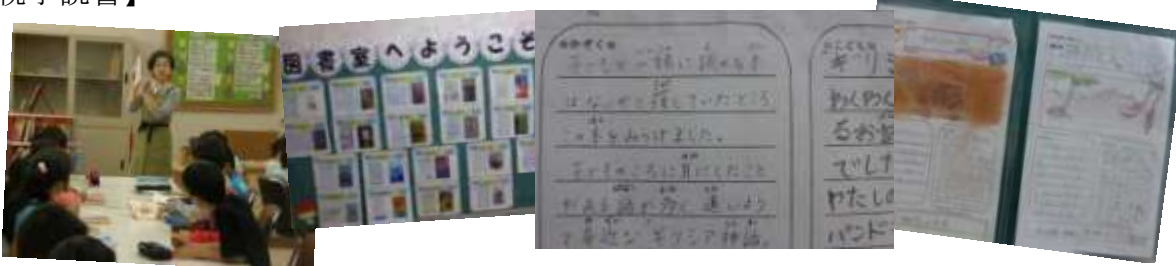
<本校児童の1分間の視写速度 11月の調査から>

1年 (19文字) 2年 (34文字) 3年 (32文字) 4年 (35文字)
5年 (49文字) 6年 (36文字)

< 共通理解事項 >

- ・ 教師と児童が同時進行で行う。
- ・ 教師は、クラスの平均速度で全員の視写をリードしていく。
- ・ 視写の時間は低学年3分～5分、中高学年5分～7分を目安とする。
- ・ 速い児童には「丁寧さ」を要求し、遅い児童には、多少の文字の乱れを認め、みんなに遅れないように励ます。
- ・ 書き終わった児童には、見直しや乱れた文字を直させながら、遅い児童との時間調整を図る。
- ・ クラス全体のスピードが上がったら、教師も徐々にスピードを上げていく。
- ・ 原稿用紙を使用した場合、綴じ込んでおさせる。

【親子読書】



読書月間を11月に設定。併せて「親子で一緒に読書」を推進した。読書後、児童の感想に加え、家族の方からも、ひとこと言葉をいただいた。

【学力強化週間】

- ・ 12月10日～21日の業前を「読む・書く」「計算力」の定着習慣と位置づけて、全職員で指導にあたる。
- ・ 4月当初確認し合った、家庭学習の約束を再度確かめ合う。
- ・ 保護者へ啓発のお手紙を配布し、家庭の協力を得る。
- ・ 県や東部教育事務所作成のワークシートをプリントアウトして、いつでも使えるように準備しておく。

(3) 成果と課題

具体的な方策を掲げることで、全職員の共通理解が図れ、足並みを揃えて実践することができた。学習習慣の確立や学習に対する意欲の向上等は、心の教育や家庭との連携が必要であり、規律ある態度の育成と並行して進めていく必要がある。学習に対する心構えがあって、学力の基礎・基本の定着はあるととらえる。